

滋賀の文化情報誌
デュエット

2021 秋 vol.140

新撰 淡海木間撰 85
大岩山銅鐸6号鐸

INFORMATION STATION
催し案内 2021 秋

MYBOOK
自費出版物の紹介

SUNRISE BOOK PRESS
サンライズ出版の新刊案内



特集

大岩山銅鐸の形成

近畿式銅鐸と三遠式銅鐸の成立と終焉

特集

大岩山銅鐸の形成

近畿式銅鐸と三遠式銅鐸の成立と終焉

会期：10月9日(土)～11月28日(日)

日本最大の銅鐸(高さ134.7cm)をふくむ明治の大岩山銅鐸発見から140年を迎えたのを記念し、野州市歴史民俗博物館(銅鐸博物館)で、企画展が開催されています。

担当学芸員の鈴木茂さんと進藤武館長に、明治・昭和の銅鐸発見と、そこから見えてくる弥生時代の社会の変化について、お話をうかがいました。

1階展示室

↓野州市歴史民俗博物館と大岩山銅鐸出土地、弥生時代の主要な遺跡の位置



野州市歴史民俗博物館(銅鐸博物館)

住所 野州市辻町57-1

連絡先 TEL 077 (587) 4410 FAX 077 (587) 4413

休館日 月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日(土・日、祝日の場合は開館)、年末年始(12/28～1/4)

入館料 企画展：一般500円、高大生350円、小中生250円

駐車場 50台

アクセス JR 琵琶湖線「野洲駅」から近江鉄道バス。「花緑公園」行き、「村田製作所」行きは「銅鐸博物館前」下車すぐ

取材／編集部 写真／辻村耕司



近畿から東海にかけての銅鐸が これだけ一堂に会する展示は、希少。

2人の少年が土を掘ると、銅鐸3個が出土

まず、140周年となる明治の銅鐸発見についてご説明いただけますか。

鈴木 明治 14年（1881）8月20日、^{まち}町村の2人の少年、^{おの}小野田金太郎さんと^{もり}森岩松さんが大岩山で遊んでいるとき、小さな穴の中に緑色の木の葉のようなものを見つめます。ついてみると、どうやら金物らしい。竹の棒を使って土を掘ると、銅鐸3個が出てきました。

すが、すごいものであろうということですが、年たちもふくめた発見者6人と山の地主、両村の戸長らが連名で、草津警察署に届書を提出します。その文書では、銅鐸のことを「唐金古器物」と呼んでいます。

これが警察署から滋賀県令、農務省博物館に伝わり、最終的には東京帝室博物館（現、東京国立博物館）が、一番大きい銅鐸と2番目に大きく、かつ水鳥が描かれている銅鐸を買上げました。

残りのものはすべて現地の人に返され、そのまま持つていくれたらよかったのですが、国内やアメリカ、ドイツに散らばってしまいました。

さらに、昭和30年代にも発見されています。

進藤 昭和 37年（1962）、北海道新幹線の建設にともなって盛り土を取るために、大岩山で土砂を採掘していたとき、銅鐸6個が出てきました。

現場の発見者は近江八幡市長光寺町の古物店に売ってしまったのですが、店主は古い時代の金物を6個買ったので一応調べてほしいと近江八幡警察署へ届け出ました。そこで調べてみると、さらに3個の銅鐸が見つかりました。

そして、京都大学の梅原末治先生が現地へ来て、発見者の証

※1 梅原末治（1893～1983）考古学者。京都大学名誉教授。日本考古学の基礎を築いたとされる。

言に基づき埋納状況の調査が行われました。さらに、1か月ほど前に別の工事関係者が大岩山の山頂近くで見つけた銅鐸があったことがわかり、合計10個になりました。

鈴木 工事の人は、その日の酒代がもうかったというくらい感覚だったそうです。進藤 さすがに県の方は明治の銅鐸が散逸してしまつたという経験がありましたので、土地の所有者にお金を払って県の所有としました。発見者にも権利はあるのですが、権利を放棄されました。

当館の開館は昭和63年（1988）の秋ですから、昭和の銅鐸発見からもかなり時間が経っています。前年に刊行された『野洲町史』を編纂するなかで、「銅鐸のまち」という認識が高まり、銅鐸の出土地に近接する場所に博物館を建てようというかたちで計画が進みました。

開館以来、銅鐸専門の学芸員さんがいらつしやるのですか。

進藤 いえ、銅鐸専門の学芸員というのは、全国でもごくわずかです。銅鐸というのは、厄介なものなんですね。考古学をやっている我々が発掘調査をするのは昔の村やお墓の跡、いま遺跡と呼んでいる埋蔵文化財包蔵地であるわけですが、その遺跡から銅鐸はほぼ出ないんです。

大岩山もそうですが、村からはずれた場所、小高い山の斜面のようなどころからポロツと出てきます。つまり、ほとんどが不時発見であるため、考古学をやっているも、銅鐸を掘ったことがない人ばかりです。そして、出てくると、すぐに国宝や重要文化財になってしまうこともあり、限られた



野洲市歴史民俗博物館
館長

進藤 武さん

しんどう・たけし／1962年、大阪府生まれ。野洲市教育委員会教育部次長、歴史民俗博物館館長兼文化財保護課長。



野洲市歴史民俗博物館
学芸員

鈴木 茂さん

すずき・しげる／1990年、滋賀県大津市生まれ。2020年4月より現職。本展が、初の担当企画展となる。



昭和36年(1961)



昭和24年(1949)



平成22年(2010)

◀↑大岩山周辺空中写真

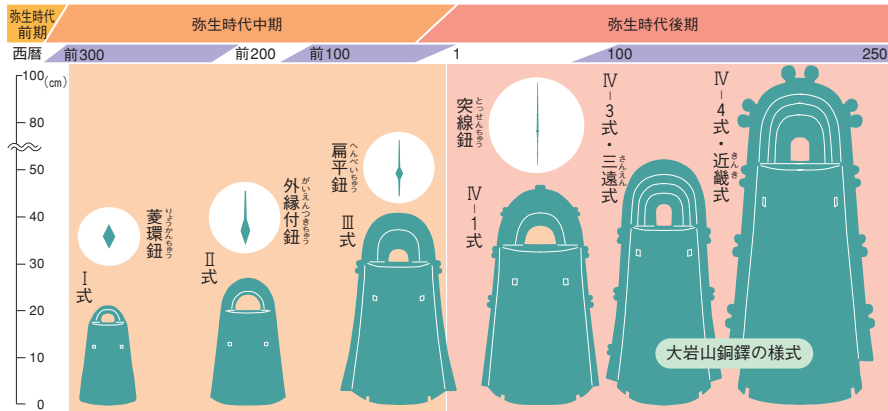
国土地理院サイトより。昭和24年は米軍撮影

→銅鐸の埋納状況の推定模型。入れ子にして埋められていた。
野洲市歴史民俗博物館展示

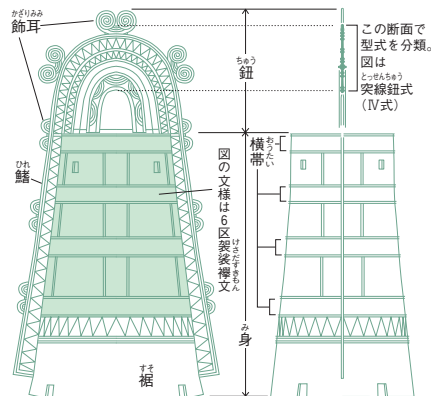
↓大岩山出土銅鐸（複製）

24個のうち19個
写真提供：野洲市歴史民俗博物館





↑銅鐸の移り変わり 鳥根県立古代出雲歴史博物館図録『弥生青銅器に見せられた人々』掲載の図などをもとに作図



↑銅鐸の各部の名称

人しか扱うことができない出土品なんです。
——新幹線の路線の盛り土になって大岩山自体はほぼ消滅してしまっただけですが、出土地はどのような場所だったのですか。
鈴木 「大岩」という名前のとおり、大きな花崗岩が露呈している、ゴツゴツした山だったそうです。現在では、明治時代とはまったく地形が変わっています。
進藤 もともの大岩山は、丘陵部の中で最も琵琶湖側にせり出した場所でした。昭和28年（1953）に国道8号が通って、宮山1号墳という古墳が壊されます。工事の際に古墳の口がバカツと出てきたので、県が京都大学に調査を依頼しています。
開発と遺跡の発見は表裏一体の面があった、名神高速道路の建設では栗東市の新開古墳などが壊されました。近年でも、大阪府の東大阪市から八尾市にかけて遺跡が点々とつながっているのは、近畿自動車道を建設する過程で見つかった遺跡が並んでいるわけです。
——事前に資料をいただきましたが、銅鐸は名称や型式の名前が難しいですね。
進藤 「銅鐸」というのは、考古学の用語の中でも一番古い言葉なんです。平安時代初期の『続日本紀』に奈良時代の大和国で銅鐸が発見されたという記述があり、その後も「銅鐸」もしくは「宝鐸」という名で出土の記録が現れます。10世紀にはインドで仏教を伝えたアショカ王の持ち物であるという説が唱えられました。石山寺の創建にあたって銅鐸が出てきたので非常に縁起のよいことだとされ、昔から注目されてきた考古資料でした。
例えば、袈裟褌文という名称はお坊さんが着る袈裟に似ているからですが、この名

近畿式銅鐸と三遠式銅鐸の両方が出土した大岩山

称をいま呼び替えることはできないのです。
鈴木 用語の難しさは、今回の展示でも一番頭を悩ませているところですよ。
——それでは本題の企画展の内容を。
鈴木 この大岩山の特徴として、日本最大の銅鐸が出土したということももちろんあるのですが、一番興味深い特徴は、飾耳という、サザエさんの髪型みたいな半円形の飾りがついた近畿式銅鐸と、逆にそれがなかった近畿式銅鐸、逆にそれが出土していることなんです。「三遠」は三河と遠江、つまり愛知県東部から静岡県西部にかけてのことです。
進藤 それは、よくわかりません。

※2 水野正好（1934～2015）考古学者。滋賀県教育委員会を経て、奈良大学教授、同学長などを歴任。
大岩山には3回に分けて埋められています。明治発見の銅鐸と昭和発見の銅鐸それぞれの製作時期を比べると、明治発見のほうが新しい銅鐸が含まれており、埋納時期は昭和発見の銅鐸のほうが先だと考えられます。
そして、昭和発見の10個のうち、離れた場所から見つかった1つだけが流水文という少し古い銅鐸で、いち早く単独で埋められたようです。
——まだ埋まっている可能性は？
進藤 昭和の発見当時、滋賀県唯一の埋蔵文化財調査担当職員として入られたばかりだった水野正好さんが、大津の自衛隊に依頼して金属探知機による探索も行い、破片が10点ほど回収されています。私たちも金属探知機を持って山を歩いたことがありますが、釘などしか見つかりませんでした。

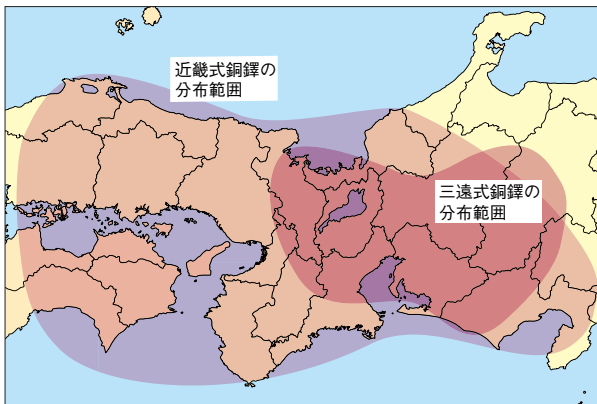
野洲川流域に生まれた弥生時代の連合社会

鈴木 人だな、鳥だなとわかる絵が描いてある場合はよいのですが、飾耳の渦巻き模様は何かというのに定説はありません。

こちらはすでに通説といってよいと思いますが、銅鐸はだんだん巨大化していくなかで、「鳴らす銅鐸」から「見る銅鐸」へと変わっていきます。鳴らす銅鐸は小さく、中に吊り下げた舌^{ぜつ}があたつて音が出たのですが、大きくなったものでは、基本的には鳴らしません。しかし、三遠式は鳴らした跡がついており、近畿式とは違います。

つまり、様式や祭祀^{さいし}における使い方が違う銅鐸がいっしょに出土していることが、大岩山の二つ目の特徴なんです。

また、銅鐸の外観、飾耳の有無なども三遠式の特徴と近畿式の特徴が混在したような、明確に分類できない銅鐸もあります。さらに、6区と呼ばれる部分の下にもう一段ついている変わった銅鐸「9ページ参照」もふくまれており、個別に比較してみても大変おもしろい銅鐸群です。



↑近畿式銅鐸と三遠式銅鐸の分布

図を見ると、近畿式の分布は、三遠式の分布域全体にも広がっていたんですね。

進藤 稲作を中心とした共同社会を営んでいた弥生時代の終わりごろになってくると、近畿地方を中心とした大きな国のようなまとまりと、東海地方のまとまりができてきます。銅鐸も、近畿地方と東海地方で異なる2種類の祭りのシンボルとなります。

ちょうど近畿の北のはずれ、東海地方の西の端にあたる近江の野洲から、両方の特徴を備えた銅鐸が出土したことは、近江の国が近畿地方の結びつきの中に入っていたけれども、やはり東海地方のことも無視できないという状況にあったのでしょう。当時の社会情勢が、集団のシンボルである銅鐸からもうかがえるわけです。

そのように、時代が共同社会から権力社会へ変わっていくなかで、登場した権力者が何回かに分けて、村々の銅鐸を集めさせて、大岩山に埋めさせました。3世紀の前半くらいまでに、銅鐸の祭りというのは終わりを迎えます。

それにかわって、3世紀の後半になると、銅鐸を埋めた大岩山に権力者の墓である古墳が代々築かれていくようになります。まさしく共同社会から権力社会へ移り変わっていくさまが如実にわかる場所であるということですね。

銅鐸の出土地は、その後で古墳ができた場所であることが多いのですか。

進藤 なかなか直接結びつく例は少ないのですが、野洲の場合は、銅鐸出土地の周辺に小高い丘が2kmくらいにわたって広がっていて、古墳時代の権力者の墓が点々と、10世代以上もつづられ続けています。

その頃、近江の国という意識はあった

のですか。

進藤 すでにまとまりはあります。例えば土器でしたら、受口状^{うけぐちよう}口縁土器^{くわんえんどうき}と呼ばれる特徴のある土器は、滋賀県の土器です。

滋賀県以外もだいたい県単位か少し小さい旧国^{きゅうこく}くらいの単位で地域社会ができています。弥生時代の後期（1〜2世紀ごろ）になると、畿内の大阪や京都の土器はほとんど飾りがなくなりますが、滋賀県は、まだ櫛状^{くしじょう}のもので飾りを付けた受口状の土器を使うといった地域性が見られるんです。そういう破片が、例えば京都や大阪で出れば、すぐに滋賀県産だとわかります。

銅鐸の場合、そうした土器の地域性よりもさらに広域を包括する、大きな祭器ということになります。

銅鐸の作り手は、それぞれの地域にいたのでしょうか。

進藤 そこが、ちょっとわからないんです。いわゆる「渡り工人」、技術者集団が求めに応じて移動した先で作ったとも考えられますが、紀元前3〜2世紀の、大きな銅鐸の前の段階からすでに地域性のある銅鐸が現れており、工人集団が1つではなかったことは確かです。

原料については、分析の結果、大陸から運ばれてきた鉛^{なまり}や銅を中枢の集団が一元的に入手し、そこを通じていくつかの場所で銅鐸が作られていたと考えられるのですが、いずれにしても銅鐸は、1つや2つの村で、「じゃあ、作ろうか」といつて作れるものではありません。多くの村が集まった1つの大きな連合社会が生まれてきているということを示しています。滋賀県の中でも、特に野洲川流域は稲作に適し、人口密度の高いところでした。弥生時代の終わり

ごろから、下^{しも}の郷、二ノ畦^{にのあぜ}・横枕^{よこまくら}といった大きな村が、現在の守山市にあたる野洲川左岸にたくさんできています「2ページ地図参照」。

大岩山銅鐸の時代になると、伊勢^{いせ}（守山市）や下鈎^{しもがかり}（栗東市）で棟持柱^{むねもちばしら}をそなえた大型の高床建物などで構成される集落が出現します。さらに、強力な権力者が台頭す

それぞれ個性的な5つの銅鐸群

——各地から5つの銅鐸群の例が集まることも、本展の見どころだとか。

鈴木 さらに話がややこしくなるのですが、大岩山の銅鐸群に至る前の段階の流れも説明しておきます。

銅鐸上部の吊り手^{つりて}（逆U字形の部分）を「鈕^{ちゆう}」といい、この断面の形が「扁平鈕式^{へんぺいぢゆうしき}（Ⅲ式）」からさらに新しい「突線鈕式^{とつせんぢゆうしき}（Ⅳ式）」になった段階で、10以上に分かれていた銅鐸群が、次の5つに統合されます。

- ① 大福型^{だいふく}
- ② 迷路派流水文^{めいろはなみづもん}



① 大福型

奈良県桜井市
大福遺跡出土
写真提供：桜井市教育委員会

② 迷路派流水文

京都府与謝野郡与謝野町
明石出土
写真提供：京都国立博物館



↑ 近畿式

大阪府羽曳野市西浦出土
写真提供：羽曳野市教育委員会



③ 東海派

愛知県清須市
朝日遺跡出土
写真提供：愛知公益財団法人
愛知県教育・スポーツ振興
財団 愛知県埋蔵文化財セ
ンター



④ 横帯分割型

香川県善通寺市
大森山出土
写真提供：京都国立博物館



↑ 三遠式

静岡県浜松市
前原遺跡出土
写真提供：浜松市博物館



⑤ 石上式（正統派流水文）

推定奈良県出土
辰馬 406 鐸
写真提供：財団法人 辰馬考古資料館

消滅

る邪馬台国の時代になると、下長^{しもなが}（守山市）のように大きな政治的な力を持つ村が出てきます。このように銅鐸に見合った背景がかなりわかってきています。

鈴木 今回の企画展では、下鈎遺跡・服部遺跡・下長遺跡など、弥生時代の大規模集落の出土品も展示します。

集団が統合されていく過程でもあると。

鈴木 大福型銅鐸は、大福遺跡（奈良県桜井市）出土の銅鐸が名前の由来です。奈良県の遺跡の名前がついていますが、大岩山から3個見つかったっている銅鐸の形で、近江で作られた可能性が非常に高いとされています。

他の様式の名称にも厄介な問題があって、東海派という様式ももとをたどると西日本で作られ始めたのですが、だんだん東の方に製造地が移っていった、そちらの方が多くなってしまったので東海派という名前になっています。

進藤 東海派を受け継いだ三遠式銅鐸というのは、鳴らした痕跡がある点から見ても古いかたかなんです。それは、もともとその前の段階に、西日本で行っていた古い祭りのかたちを東海地方に移し、そこで用いられたためと考えられます。その頃に近畿地方では、鳴らさない、大型で装飾化した近畿式銅鐸を、より広域な集団の祭器として生み出します。

この5つのうち、①大福型と②迷路派が合体して近畿式になります。ざっくり言うのですが、③東海派と④横帯派が合体して三遠式になります。そして、⑤の石上型は途絶えてしまいます。

さらに最後の段階では三遠式も途絶えてしまい、近畿式一本で銅鐸はつくられるのですが、これもやがて消えていきます。

5→2→1という流れは、複数あった

——地方に京の古い言葉が残っている方言と同じですね。

鈴木 東海派の例として展示する銅鐸の一つ「7ページ参照」は、東海地方を代表する弥生時代の大规模集落である朝日遺跡（愛知県清須市）の集落の南端に埋納されていたものです。昨年11月に開館した「あいち朝日遺跡ミュージアム」所蔵の、重要文化財に指定された2028点もの出土品から選りすぐりのものを展示します。

——銅鐸型土製品なんてものもありますね。

鈴木 土で銅鐸を作っており、銅鐸に対して関心を持っている集落だったことがわかります。じつは、銅鐸型土製品というのは、実際の銅鐸よりも、さらに広範囲な地域から出ているんです。本物の銅鐸が手に入らない地域の人もほしかったのか。後の時代でも、金属製品を土でまねる例はかなりあります。

——迷路派流水文は、特殊な気がしますが。

進藤 流水文は、土器にも描かれている文様で、弥生人には親しみのある文様だったのだらうと思います。土器流水文は回転台の上で櫛を粘土に押し当てて、回転させながら文様をつけます。しかし、銅鐸の場合は鑄型に一本一本、線を刻んで文様を仕上げ、これに溶かした青銅を流し込まないと出来上がりがない厄介な代物です。流水文には2種類あって、線の描き始めと終わりが結びつくかたちのものを正統派



↑銅鐸型土製品
朝日遺跡出土

流水文、始まりと終わりがつながらないものを迷路派流水文と呼んでいます。

昭和発見の1つだけ離れた場所から出土した10号鐸が流水文で、鑄金家の小泉武寛さんがいくつかわ流水文銅鐸の鑄造に挑まれています。「だいぶ慣れてきた」とおっしゃっていました。が、相当熟練した技術が必要で。

——近畿式の例の1つは、黄金色で他と色が違いますね。

鈴木 西浦小学校出土銅鐸（大阪府羽曳野市）「7ページ参照」ですね。比較的、当時の色をとどめている銅鐸です。

進藤 銅鐸は、銅と錫に、鉛を少し加えた合金でできています。十円玉より五円玉に近い。銅鐸を埋めた穴が粘土層で、密閉された状態にあったものをきれいに掘り出すと、そのままの色で出てきます。跡部遺跡（大阪府八尾市）という低湿地の集落跡から見つかった流水文の銅鐸は非常に珍しい例で、発見直後は金ぴかだったのですが、酸化して灰色になりました。このため、保存容器内に窒素ガスを充填させて酸化しない工夫などがなされます。放っておくと、緑青が浮いて、青い色に変色してしまいます。

次の時代にも保持された飾耳

——巨大で装飾も華麗な近畿式銅鐸ですが、まもなく銅鐸の時代は終わるわけですね。

進藤 最終段階になると、ちょっと早く東海地方では銅鐸がなくなります。一方、近畿地方の銅鐸は破壊された状態で出土するものがあります。壊して、鋳つぶして、次

※3 緑青 銅または銅合金の表面に生じる緑色のさび。空気中の水分と二酸化炭素の作用によるもので、古くから緑色顔料として利用。

——大岩山の銅鐸は壊されず、幸いでしたね。



↑銅鐸飾耳
守山市下長遺跡出土
写真提供：守山市教育委員会

進藤 新たな権力者が村々にあった共同社会の祭りの道具である銅鐸を取り上げて、集めさせただけでも、壊すことはできなかったでしょう。ただ、大岩山銅鐸の中にも飾耳だけ切り取っているものもあるんです。おもしろいことに、銅鐸自体は姿を消すのですが、飾耳だけはまれに後の時代まで保持されるものがあります。銅鐸というのはかなり頑丈で、熱を与えれば割れますが、ちょっと耳だけを折ろうかといっても、そう簡単には折れないのですが。邪馬台国の時代にあたる下長遺跡（守山市）から飾耳が出土していますし、青木遺跡（島根県出雲市）では弥生時代後期末の墓の人骨頭部付近から飾耳が出土しています。藤井原遺跡（静岡県沼津市）の飾耳は穴を開けて垂飾品として利用したと考えられます。

銅鐸は壊されましたが、次の時代の権力者も銅鐸が持つ呪術的な力を護符として引き継いだのでしよう。

——本日はお忙しいところ興味深いお話をありがとうございました。

鈴木 近畿から東海にかけての銅鐸がこれだけ一堂に会し、かつ同時代の土器なども並ぶ展示は、全国的にも希少な機会です。皆さんのご来場をお待ちしております。

大岩山銅鐸6号鐸（袈裟襷文銅鐸）

野洲市歴史民俗博物館学芸員

鈴木 茂

滋賀県野洲市が誇る文化財、大岩山銅鐸が野洲市小篠原の大岩山で明治14年（1881）に発見されてから140年を迎えました。弥生時代につくられた大岩山銅鐸は、日本の古代史を解き明かす重要な手がかりとして全国的に注目されています。

大型の銅鐸は近畿地方を中心に分布する近畿式銅鐸と、東海地方を中心に分布する三遠式銅鐸の大きく2つに分けられます。大岩山からは24個もの銅鐸が出土し、このうち近畿式の成立に関わる銅鐸4個、近畿式銅鐸が14個に三遠式銅鐸が4個含まれています。また、大岩山銅鐸の中には独特な特徴をもった銅鐸がいくつかあります。今回、ご紹介する大岩山6号鐸もその1つです。

大岩山6号鐸は昭和37年（1962）に発見された、高さ55・4cm、重さ6・16kgを測る弥生時代後期（1・2世紀頃）の銅鐸です。



通常、銅鐸の身の部分は中央と左右の縦帯と横帯によつて4区画ないし6区画構成です。しかし、6号鐸は縦帯を身の下方にまで延長し、まるで8区画に構成されているように見えます。また、飾耳（銅鐸の周りについている耳状の飾り）のつけ根の中心に縦の線を入れ、鱗（ノコギリ様の文様（鋸歯文）の斜線の数が少ないなど決め事が守られています。このほか三遠式と近畿式の両方を兼ね備えた独特な銅鐸もあります。

こういった特徴がみられることは、銅鐸の新しいデザインを考えようとしたのかは不明ですが、製作者の試行錯誤の様子を読み取ることができます。

大岩山銅鐸の中に独自性がみられる背景には、それぞれ各地にあった集団がより大きな集団へと統合される過程の中で、新たな共同祭祀としての銅鐸が模索されたのでしょうか。

銅鐸博物館では秋期企画展「大岩山銅鐸の形成——近畿式銅鐸と三遠式銅鐸の成立と終焉——」で静岡県や奈良県などの東西から出土した銅鐸や遺物を展示し、大岩山銅鐸からみた弥生社会を解き明かす展覧会を行いますので、ぜひご来館ください。（10月9日（土）から11月28日（日）まで開催）

講師：大沼芳幸氏（NPO 法人歴史資源開発機構主任研究員）

受講料：無料（事前申し込み要）

定員：80名（先着順、電話申し込み）

お問い合わせ先：TEL 077 (585) 4397



秋期企画展 大岩山銅鐸の形成

—近畿式銅鐸と三遠式銅鐸の成立と終焉—

10月9日(土)～11月28日(日)

野洲市歴史民俗博物館

弥生時代につくられた大岩山銅鐸は、日本の古代史を解き明かす重要な手がかりとして、全国的に注目されています。

本展では、大岩山銅鐸の形成について東西の銅鐸や遺物を紹介しながら考察していきます。

入館料：一般500円、高大生350円、小中生250円

休館日：月曜日（祝日の場合は開館）、11月4日(木)・24日(水)

■関連講演会

「近江の青銅器文化

—大岩山銅鐸への階梯とその周辺—

11月6日(土) 14:00～16:00

講師：吉田 広 氏（愛媛大学ミュージアム教授）

「近畿式銅鐸と三遠式銅鐸の成立」

11月23日(祝・火) 14:00～16:00

講師：難波洋三 氏（奈良文化財研究所客員研究員）

参加費：要入館料

定員：80名（先着順、電話申し込み）

■当館学芸員による展示解説

11月20日(土) 14:00～

お問い合わせ先：TEL 077 (587) 4410

秋季特別企画展

文人の行き交う街
—近江商人が紡いだネットワーク—

開催中～11月21日(日)

観峰館

近江商人ゆかりの東近江・近江八幡地域は、江戸時代以降、多くの文人が訪れ、商人の旧家には、貴重な書画作品が数多く伝来しています。

本展では、近江商人の末裔たちが大切に守り伝えてきた書画を通じて、^{めづる}賞名^{すうおう いわや いちろう}松翁、^{のぐちしょうひん}巖谷一六、野口小蘋ら、著名な文人たちの交流(ネットワーク)をたどります。



野口小蘋「青緑山水図」 個人蔵

入館料：一般1000円、高校生・学生800円、中学生以下無料

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）

■土曜講座 秋季特別展の見どころ②

「巖谷一六日記」と2種の印譜

11月6日(土) 13:00～14:00

定員：20名（要予約。入館料で参加できます）

お問い合わせ先：TEL 0748 (48) 4141

市制施行50周年記念

発掘調査半世紀のあゆみ

—昭和、平成の守山を沸かせた調査と発見—

開催中～11月28日(日)

守山市立埋蔵文化財センター

服部遺跡出土の木製琴、伊勢遺跡出土の棟持柱付き高床式建物の出土など、テレビや新聞で話題となった遺跡調査を紹介します。

入館料：無料

休館日：火曜日（祝日を除く）、祝日の翌日

■講演会

「全国から見た守山の遺跡」

11月20日(土) 14:00～

第155回企画展

ビジュアルに実感！ 近江の歴史
—模型・絵画・復元の世界—

開催中～10月31日(日)

伊吹山文化資料館



信長の大船復元模型

塩津港遺跡（長浜市）や唐橋遺跡（大津市）などの発掘調査で得られた資料をもとに、滋賀県文化財保護協会職員の横田洋三氏が製作した模型などと、関連する出土品を展示。

入館料：高校生以上200円、中学生以下100円

休館日：月曜日

お問い合わせ先：TEL 0749 (58) 0252

生誕120年

野口謙蔵洋画展

開催中～11月3日(祝)

近江商人博物館・中路融人記念館



野口謙蔵「雪後風景」(個人蔵)

ふるさと蒲生の情景を描き続けた洋画家野口謙蔵の作風は、洋画の中に日本的な詩情を持つ日本画的洋画と評されました。郷里の人びととともに生き、周囲から「野謙さん」と呼ばれ、多くの村人に尊敬と誇りをもって親しまれた洋画家野口謙蔵。

地域の人びとによって継承されてきた洋画作品を一堂に集め、紹介します。

入館料：大人300円 小中学生150円

期間中の休館日：月曜日

お問い合わせ先：TEL 0748 (48) 7101



4コマ漫画で読む 湖南省の史跡と伝説

ロビンやすお 著
A5判並製本 総82頁 1100円(税込)

奈良時代から交通の要衝として発展してきた滋賀県湖南省。湖南三山(善水寺・長寿寺・常楽寺)などの古刹や文化財、東海道の宿場町や伝説を、インパクトのある4コマ漫画で紹介。

実証・経営原則「継ぐ・つなぐ」 The Principle of Real Management

原 清 著

B6判並製本 総278頁 2420円(税込)

経営コンサルタントの著者が、体験した経営の事例を紹介しながら、企業が生き残るためのポイントを説く。ドラッグストア「ウエルシア」創業者の実践哲学を巻末に増補収録。



写真でつづる森のお家と仲間たちの成長 笑顔をありがとう 家族と暮らす医療的ケアの必要な子どもたち

國森康弘 写真
B5変形上製本 総194頁 2420円(税込)

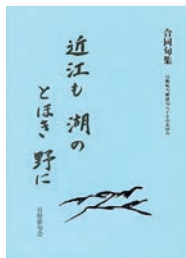
医療的ケアが必要であっても、笑顔や元気いっぱいの子供たちのありのままの姿を記録した写真集がクラウドファンディングにより完成。

My Book 自費出版物の紹介

紫桜 膳所高校野球部120周年史

滋賀県立膳所高校野球部OB会
120周年史作成委員会 編
B5判並製本 総460頁 非売品
問合先 滋賀県立膳所高校硬式野球部(上品)

明治31年(1898)、学校設立と同年の創部から、平成30年(2018)選抜高校野球大会に21世紀枠で出場するまでの主な出来事と対外試合の詳細な記録などを収録。(2021.7.1刊)



合同全集 近江も湖のとほき野に

鳩の会 編／日野俳句会 発行

A5判上製本 総180頁 非売品

問合先 蒲生郡日野町大窪111 美鍵虹樹(代表)

45名による合同全集とあわせ、先生方や諸先輩の色紙・短冊、写真などとともに、昭和16年(1941)、俳人・皆吉爽雨の来町以来の日野俳壇80年の歩みを振り返る。(2021.7.20刊行)

写真と川柳集 花・雲・水 三紀行

松吉三男 著
A4横並製本 総112頁 非売品

問合先 東近江市建部瓦屋寺町90-51(著者)

雲に乗り世界一周旅に出る——「花紀行」「雲紀行」「水紀行」の三部構成で、自作の川柳と写真を組み合わせた、米寿記念の作品集。(2021.8.2刊)



「交差する人々—大陸系穀物の受容と東日本系祭祀の展開—」

10月30日(土) 13:30 ~ 15:00

講師: 寺前直人 氏(駒澤大学文学部教授)

「初期農耕文化の東伝—淀川をさかのぼった遠賀川集団はどう変わったか—」

11月14日(日) 13:30 ~ 15:00

講師: 森岡秀人 氏(関西大学大学院非常勤講師)

会場: 安土城考古博物館セミナールーム

参加費: 各回300円 定員: 各50名

お申し込み方法: 往復はがきによる事前申込制(受付先着順) ※事情により行事内容や日時が変更になることがあります。最新の情報は当館ホームページでご確認ください。

お問い合わせ先: TEL 0748 (46) 2424

稲作をともなう「遠賀川系土器」文化が西日本に普及したことで、縄文時代は終焉を迎えました。遠賀川系土器文化の広がり、の境界となる伊勢湾と若狭湾を結ぶライン近くに位置する近江では、両文化が複雑に共存する地域文化を展開します。

本展では、滋賀県文化財保護協会が50年にわたって発掘調査した主な遺跡を中心に、縄文～弥生時代の近江文化を紹介します。
入館料: 大人900円、高大生640円、小中生420円
会期中の休館日: 10月11日(月)・18日(月)・25日(月)、11月1日(月)・8日(月)・15日(月)

■特別展開連博物館講座

「縄文人の生活戦略—湖辺での暮らし—」

10月23日(土) 13:30 ~ 15:00

講師: 小島孝修(公益財団法人滋賀県文化財保護協会)

秋季特別展 公益財団法人滋賀県文化財保護協会設立50周年記念 黎明 —東西文化が共生した先史時代の近江—

10月9日(土) ~ 11月21日(日)
滋賀県立安土城考古博物館



上出A遺跡 縄文時代晩期～弥生時代前期土器棺墓の出土土器 (滋賀県蔵)



滋賀の暮らしと食

昭和30年代の生活に関する調査より

滋賀の食事文化研究会 編
四六判上製本 総368頁 4400円(税込)

ほぼ地産地消が実践されていた昭和30年代の暮らしと食に焦点をあて、8地域を調査。湖魚・山菜・果実・獣肉などの調達、穀類・野菜類の栽培・加工・保存のようすを記録。

あのう 穴太衆積みと近江坂本の町

須藤 護 著

A5判並製本 総236頁 2640円(税込)

自然石をほぼ加工せずに着用する穴太衆積み。門前町坂本でその伝統技術を継承する石工による石積み工程の詳細に調査。あわせて坂本の町の成り立ちとその歩みをたどる。



近江日野商人の歴史と商法

近江商人400年の奔流

満田良順 著

A5判上製本 総386頁 6600円(税込)

近江商人の中でも特に出店数の多い日野商人の実態を、近江日野商人館館長を務める著者が調査。日野椀の展開にさかのぼるその起源と、全国への展開の姿に迫る。

幻影 大津事件と津田三蔵の手紙

岡本光夫 著

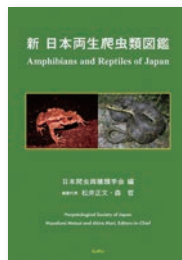
四六判並製本 総140頁 1100円(税込)

明治24年、大津京町通り。来日中のロシア皇太子を警備中の警察官・津田三蔵が斬りつけた。三蔵はのとき何を見たのか。遺された手紙からその心理に迫る。



表紙写真 大岩山出土銅鐸（複製） 写真提供：野洲市歴史民俗博物館

編集後記 大岩山の明治出土銅鐸のうちの1個は、サンフランシスコ・アジア美術館が所蔵しています。柔道家でもあった天理教2代真柱・中山正 善が、1964年の東京オリンピックの際のIOC会長で、東洋美術のコレクターでもあったアベリー・ブランデーに、銅鐸1つを寄贈したもので、柔道のオリンピック種目入りには、大岩山の銅鐸も一役買っているのだそう。進藤館長にうかがったエピソードです。



新日本両生爬虫類図鑑

日本爬虫両棲類学会 編

A4判並製本 総234頁 8800円(税込)

『原色日本両生爬虫類図鑑』（保育社、1963年）を大幅に改訂、両生類99種、爬虫類108種の最新知見に基づく分類・形態の詳細と生態・生活史の概観、全種のカラー写真を収録。

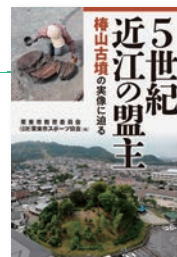
5世紀近江の盟主

つばきやま 椿 山古墳の実像に迫る

栗東市教育委員会、(公財)栗東市スポーツ協会 編

四六判並製本 総180頁 1980円(税込)

日本最大級の笠形木製品が出土した栗東市の椿山古墳。応神陵古墳出土例に次ぐ大きさの笠形木製品は、何を意味するのか？ 中央と近江の関係などをめぐるシンポジウムの記録。



近江の平城

高田 徹 著

A5判並製本 総192頁 2310円(税込)

近江には安土城や小谷城などの山城だけでなく、平地に築かれた城館も数多く存在した。訪れやすい平城40城の遺構や見どころを縄張図とともに紹介した待望のガイドブック。

あやしの桃

水沢 郁 著

四六判上製本 総192頁 1650円(税込)

彼はこの女ともう少し話をしたかった。――彦根を訪れた朝鮮通信使一行の料理人と近村の娘の運命的な出会いを描く表題作をはじめ、滋賀県を舞台とした短篇小説6篇を収録。



Duetの定期購読をご希望の方は、下記までお申し込みください。

〒522-0004 滋賀県彦根市鳥居本町655-1

サンライズ出版株式会社 Duet編集部

TEL (0749) 22-0627 FAX (0749) 23-7720
(振替) 01080-9-61946

インターネットでDuetがお楽しみいただけます。

<http://www.sunrise-pub.co.jp/>

お申込先